

テーマは「**優しさ**」住まいの福祉について考えます。 優しさ通信NO. 1  
ここでは障害者のことを、「障がい者」と記しています。ご理解ください。

## 平成28年2月の優しさ通信



### 認知症カフェ、自宅に出張 ボランティア、話し相手に

厚生労働省は2016年度から、認知症の人や家族などが集まる「認知症カフェ」で交流しているボランティアが、認知症の人の自宅を訪問する事業を始めます。

カフェに頻繁に通えない人の家に積極的に「出張」して話し相手になり、本人や家族を支援します。

(2016年1月4日 日本経済新聞記事から抜粋)



### 高齢者雇用で起業家に助成 政府 定年上げ支援も拡大

政府は4月にも、高齢者雇用に積極的な起業家を支援する助成制度を作ります。

60歳以上で起業した事業主を対象に、60歳以上の高齢者を複数雇えば必要な経費に対し200万円を上限に助成します。

(2016年1月6日 日本経済新聞記事から抜粋)



### 障がい持つ生徒 高校でも支援 通常クラスで特別指導

#### 言語障害や自閉症対象 2018年度にも

軽度の障がいのある子供が通常の学級に在籍しながら、障がいに応じた特別指導も受けられる仕組み（通級指導）を、文部科学省は高校にも導入します。小中学校で特別指導を受ける児童・生徒は2014年度に約83,000人（1993年度の導入時は約12,000人）と年々増えており、高校進学後も学習支援を続けてほしいとも要望が高まっています。早ければ2018年度から導入する方針です。

文科省によると、高校入学後、障がいへの理解がないために孤立し、不登校や中退となる生徒もいるといいます。

文科省の有識者会議は、高校で通級指導の対象とする障がいや指導体制などを議論します。

(2016年1月11日 日本経済新聞記事から抜粋)

テーマは「**優しさ**」住まいの福祉について考えます。 優しさ通信NO. 2  
 ここでは障害者のことを、「障がい者」と記しています。ご理解ください。



### 介護が必要な最大要因 まず生活習慣の見直しを

脳卒中は、1980年まで30年連続で日本人の死因トップでした。2011~2014年、肺炎に次ぐ4位ですが、介護が必要になる原因では最多の21.7%を占めます。

介護を受ける人は、年20万人ペースで増えています。

厚生労働省は2012年、国民の健康づくりの指針「健康日本21」をまとめ、一日の食塩摂取量を現状の平均10.6グラムから8グラムに減らす目標を掲げました。男性の場合、平均歩数は15%増の一日9000歩としています。  
 (2016年1月14日 日本経済新聞記事から抜粋)



### 網膜の病気 薬で進行防ぐ 画像診断で病変克明に

「中央見えづらい・ゆがむ」失明の危険も

#### 加齢黄斑変性、網膜色素変性への対処法

	加齢黄斑変性	網膜色素変性
特徴	視野の中心が見えにくい	暗いところで見えにくくなる
	物が歪んで見える	数十年かけて進行する場合もあり、失明も
	視力が低下し、失明も	
	遺伝子の働きも関係	遺伝性の病気
生活習慣 など	サングラスやフィルターで太陽光、パソコンなどの青い光を避ける	
	緑黄色野菜を多くとる	
	青魚などを積極的にとる	
	喫煙をやめる、他人のたばこの煙も避ける	
治療法	抗VEGF薬を繰り返し注射	神経を保護する薬の使用 人工網膜を移植
	飲み薬で資格サイクルを調整	
	i p s細胞から作った細胞を移植	

(2016年1月17日 日本経済新聞記事から抜粋)





## 人の i p s から「神経のもと」 脊髄損傷を改善

### マウス実験 慶大が成功

慶應義塾大学は、人間の i p s 細胞から作った神経のもとになる細胞を脊髄を損傷したマウスに移植し、症状を改善させることに成功したと発表しました。

脊髄を損傷した人の治療に使えるとみており、2~3年後をめどに臨床応用を目指します。

(2016年1月19日 日本経済新聞記事から抜粋)



## 高齢者・子育て世代支援 補正予算が成立

### 3. 3兆円補正は高齢者対策が中心

子育て・介護支援や環太平洋経済連携協定（TPP）に対応する農業体質強化策などを盛り込んだ2015年度補正予算が、参院本会議で成立。

高齢者対策 ・木造住宅の整備など3世代同居の環境づくり 630億円  
・サービス付き高齢者住宅の整備 189億円 など。

(2016年1月21日 日本経済新聞記事から抜粋)



## 高齢者の入浴事故 多発 溺死者、10年間で7割増

家庭で高齢者が入浴中に溺れて死亡する事故が増えているとして、消費者庁は注意を呼びかけました。特に、冬場は急激な温度変化で失神したりすることがあり、同庁は「入浴前に浴室を暖めるなどの対処をしてほしい」としています。

家庭の浴槽での溺死者は2014年は4,866人で、2004年の2,870人に比べ約7割増えました。うち9割が65歳以上の高齢者で、特に75歳以上の年齢層で増加。

消費者庁は注意点として

- ①入浴前に脱衣所や浴室を暖める。
- ②湯温は41度以下、つかる時間の目安は10分まで。
- ③浴槽から急に立ち上がらない。
- ④飲酒、食後すぐの入浴は控える。
- ⑤入浴前に同居者に一声かけて見回ってもらう。

ことをあげています。

(2016年1月21日 日本経済新聞記事から抜粋)

テーマは「**優しさ**」住まいの福祉について考えます。 優しさ通信NO. 4  
ここでは障害者のことを、「障がい者」と記しています。ご理解ください。



## 認知症、「脳のごみ」除き予防

### アルツハイマー病の前兆を捉える 検査装置や治療薬 開発進む

認知症患者は現在、462万人に上ります。高齢化とともに増え続け、2025年には730万人に達すると推計されています。

特に根本治療がないアルツハイマー病の比率が増えており、対応が急務です。

病気の原因となるたんぱく質の「ごみ」が脳にたまり始めるのをいち早く捉え、発症予防や治療につなげようとの試みが動き出しました。

(2016年1月24日 日本経済新聞記事から抜粋)



## 今月の福祉用具 - 入浴関連用具 その3 浴室への移動

- ・浴室への移動には、歩行と車いすを用いて移動する場合があります。
- ・歩行の場合は、浴室までの手すりの設置や段差の解消といった動線の確保が必要です。
- ・シャワーキャリーは、車いすに比べ小回りが利き、そのままシャワーできますが、小さな段差でも動きにくくなる段差を完全に解消する必要があります。また、シャワー後に居間や寝室まで戻る途中で水滴が落ち、床を濡らすことになるので注意が必要です。
- ・シャワーキャリーの上で姿勢が安定し、介助者が洗体や移乗、移動などの介助がしやすい機種を選択します。
- ・洗い場に段差がある場合、洗い場の床にすのこを設置して浴室の出入り口の段差を解消する方法があります。この場合、浴槽の縁の高さが低くなるので、他の人の入浴動作に影響が生じる場合があるので注意が必要です。

(参考：福祉住環境コーディネーターテキスト&福祉用具専門相談員研修用テキストより)

